

知恵と嘘

地域ケアにおける実践の知に
名前をつけ、実践を妨げる嘘を
打ち破ろう

Joyce Zerwekh

Holistic Nursing Practice 11(4):46-55,1997

家庭訪問に関する「嘘」に挑戦する

第1の嘘: 何もできない

第2の嘘: 援助は依存を助長する

第3の嘘: 人は自分自身の病気と苦しみを作り出している

第4の嘘: トラブルについて黙っていれば、トラブルは減る

第5の嘘: 人々が必要としているのは医療的ケアである

第6の嘘: 保健師が行う必要はない

第7の嘘: 人々には、何をすべきかだけを告げればよい

第8の嘘: 家庭訪問は高くつく

第9の嘘: パワーを共有することはパワーを失うことである

第10の嘘: 謙遜は、良い戦略である

第1の嘘 何もできない

対策:

- 違いを生み出している地域プログラムを示す
- それを実証する確実な数量を示す。
- 人間の物語を紹介する。
→ 大衆と政策立案者の冷笑に挑戦するような
キャンペーンを張る。

第2の嘘

援助は依存を助長する

対策:

- 人間の絆を通して強さが開発されるという説得力のある議論を展開する。
- 地域看護の目的は家族の自助を向上させること。
- 現在福祉の手を離れ、市民に貢献しているかつてのクライアントに登場してもらい、予算削減をねらう委員会で証言して貰う。
- 彼らが自分自身で話せなければ、保健師達が語るようにする。

第3の嘘

人々は自分自身の病気と苦しみを
自ら作り出している

対策:

- 市長や助役に、
彼ら自身もしくは家族の病気や苦悶の経
験を思い起こさせよう。

第4の嘘

トラブルについて黙っていれば トラブルは減る

対策:

- この誤解は、危機が表面化するまで、社会的・保健的問題を予防する能力がないという、我々の社会の無力さに起因している。
- これに対する回答は、
人々に恐怖を引き起こし、真実に直面する事を妨げている考えや感情を注意深く聞くことによって見出され、戦略を立てることができる。

第5の嘘

人々が必要としているのは
医療ケアである

対策:

- 保健師が行っていることを継続的に明らかにし、その価値を示していく。
- 人々が、多大な健康問題に直面し、どのように毎日を生きているのかを描き出す。
- 大衆はこの点を理解していない。
→理解できるようにしなければならない。

第6の嘘

保健師が行う必要はない

対策:

確かに保健師の仕事は微妙な人間関係に依存しやすいが、

保健師自身が、自分がしていることに名前を付け、測定していく努力をする必要がある。

(例: 機能訓練の成果は、ソーシャルサポートで図る)

第7の嘘

人々には何をすべきかだけを 告げればよい

すべき事を話すだけで保健行動を変えられるという嘘
への対策:

- 教育機会になり得るようなあらゆる体験を用いて、コーチや健康教育者としての保健師の役割を明確にする必要がある。
- 保健師がなぜ、コンピューターによる指示やビデオでは、代替不可能なのかについて、もっと議論が必要。

第8の嘘：家庭訪問は高くつく

対策：

- 視野が狭いと、短期間のまやかしの経済しか見ないようになる。…1円を節約して1万円を失う。
- もし保健師が一次予防サービスを国中の弱い家族に提供しなかったら、重度の緊急の新生児の集中ケアにお金を支払わないといけなくなるだろう。
- 子供と若い母親が、心身の障害のために雇用されずにしばしば暴力的になる代わりに、保健師の家庭訪問を受けて社会人として貢献できるように成長するのとどっちが最終的に高いだろうか
- 私たちは、この議論を、どのようにしたら自分自身のコミュニティでできるようになるのだろうか？

→立ち直った人々に語ってもらうことである

第9の嘘

パワーを共有することは
パワーを失うことである

対策:

- 他の職種とパワーを共有するように
クライアントとパワーを共有し、
権限を移譲することが大事である。
- これは、自分や我々の機関自身の中に
敵がいるのである。

第10の嘘

謙遜は、良い戦略である

対策:

- 良い戦略は、見え、聞こえるようにすること。
- **まず、実践に名前を付けていく。**
- 働く場、地域、メディア、市議会、国会、学校で実践を唱い、劇にし、研究し、講義し、物語っていく。
- 今日の社会経済的環境の中で、**謙遜は自殺行為である。**